

地域活性化につなげる木製品づくりの検討

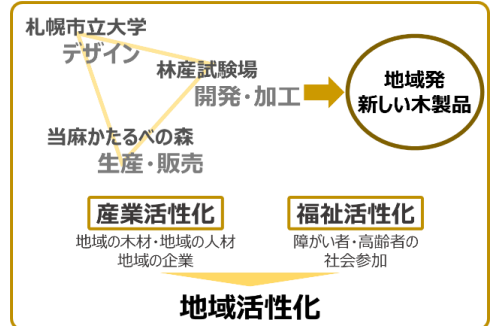
林産試験場 性能部 構造・環境グループ 北橋善範

研究の背景・目的

木製品づくりを地域の活性化につなげる取り組みの一つとして、林産試験場・札幌市立大学・(社)当麻かたるべの森の三者が連携し、地域の障がい者が生産できる木製品の開発を行いました。今回は、取り組みの流れと、事業の成果である木製品について紹介します。

当麻かたるべの森:

北海道当麻町にある授産施設。作業を通じた就業支援のほか、芸術作品の制作等を行う



【取り組みの概要】

研究の内容・成果

製品の開発過程

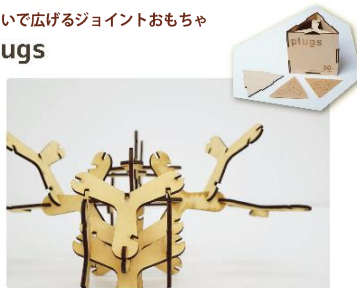


新しい木製品

1つ1つ形の違うじゃがいも型積み木
じゃがの芽



つないで広げるジョイントおもちゃ
plugs



でんすけスイカの円形オセロ
しろいたねくろいたね



画紙の収納とセットになった掲示板
こるくの木



不在の親から鍵っ子に伝えるマグネット
おかえりドア



組み合わせて使う子どろぶつ型収納
On Animal



まとめと今後の展開

地域の産業と福祉活性化の一助として、障がい者が生産に携わることのできる魅力的な木製品を開発し、生産工程を確立、販売までを行いました(現在は当麻町くるみなの木遊館にて取扱い)。今後は企業と福祉施設が連携して製品を生産する仕組みづくりを行っていききたいと思います。

審査委員長賞 受賞!!

ウッドデザイン賞2016



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2016